

科学史技術史通信

特定非営利活動法人
科学史技術史研究所

田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫

No.10
2010.9.20

157-0027 東京都中野区野方1丁目2番1-B101

Website URL: <http://ihst.jp/> e-mail: ihst@ihst.jp



2008年ノーベル賞授賞式会場



上図は、2008年ノーベル賞授賞講演会場(ストックホルム大学)

ノーベル賞と大学の課題

—ノーベル財団理事長の講演から—
木本 忠昭

今年も、あと一ヶ月もすれば本年度のノーベル賞受賞者が取りざたされ、発表の時期ともなる。筆者は、2年前の、日本人3人が物理学賞を受賞したとき、ストックホルムの授賞式に出席し、受賞者の記念講演を拝聴した。記念講演は特段の制限はないが、授賞式は当然ながら入場券が限られており、条件は厳しかったが、20年来の友人であるノーベル記念館館長の Lindquist 氏のおかげで入手できた。

この年は、いうまでもなく益川敏英、小林誠、南部陽一郎、下村脩の日本人4氏が物理学賞を受賞するというで、日本政府やマスコミ関係者でにぎわった。以来多くの報道がなされ、日本の科学研究や科学政策に関する議論や報道が盛んに行われた。受賞者達からも科学研究の現場からの誠実な発言や日本における問題提起がなされた。しかし、これとはとは別に、科学政策関係では、「第2期科学技術基本計画」には「50年間で日本から30人程度のノーベル賞」という数値目標が入っていたこともあり、とりわけ強気の発言がなされ¹、政策的に重点的資金投入によるノーベル賞獲得という、政治的思惑一辺倒で科学研究たるものを理解しない者達も盛んに発言をしてきた。

この中で、日本のマスコミや政策関係者が、この2008年の記念すべき受賞に関連して、まったく報道なり注目してこなかったことがある。それは、2008年12月10日のストックホルム・コンサートホールでの授賞式でのノーベル財団理事長ストーク氏の開会演説である。日本のマスコミは、開会演説は単なる形式的なセレモニーとだけみて、その中身を報道してこなかった。

ストーク氏(Marcus Storch)氏の演説は、実は今日の大学の課題と責任に関するものであった。ノーベル賞授賞式に大学の課題と責任とは一見とってつけたようにみえるかもしれないが、実はノーベル賞受賞級の重要な研究は今日では大学に關係することが多くなっている、ノーベル賞を考えると、その基盤の大学の役割と機能を考えざるを得ないわけである。

日本でも今日、特に国立大学は法人化や一般教育の大綱化以降、急速な変容を遂げている。また近年の大学予算の減少は、大学の教育・研究機能を急速に縮小させている。現政権は、予算を一律10%削減を謳っているが、これが実現されれば、国立大学の場合、数十の大学廃止に匹敵する予算縮小と試算されている。各大学で、教員が減少し、正規教員が非常勤に置きかわる。当該分野での大学の研究能力が失われ、やがて非常勤の縮小廃止によって、学生に対する教育もますます偏って貧弱なものになる。いわゆる「大綱化」以来、大学教育は大幅に偏ってきたが、これが、さらに極端になりもはや大学教育は宙に浮くであろう。大学の研究能力も、研究大学と教育大学の差別化政策、予算の一部大学への集中投入によって、研究水準をあげようとする政策は、早晩行き詰まるであろう。

アメリカでは、差別政策・重点化政策は、今や大きく軌道修正されているが、ヨーロッパと比較してみても、日本の政策は特異な道を歩んでいるように見える。

ストーク氏の開会演説を簡単に紹介しよう。

¹ 例えば2010年10月10日の文部科学大臣記者会見「基本計画がスタート(のときの話だが)今年目で既に7人出ているので、...この数字は達成できる状況」... (11時10~28分)

2頁以降は、以下の内容です(全8頁)が、会員配布の印刷体でお読み下さい。



ノーベル博物館食堂の椅子:裏に受賞者のサイン



カロリンスカ大学(スウェーデン大学医学部)構内ノーベル像



ノーベル財団のある建物 スウェーデン科学アカデミー図書館

国際大会から.....

ICHOTEC 本年大会終わる

.....来年は、Glasgow.....

E.Pauer 教授からの通信

ICOHTEC(国際技術中委昌会)は、周知のように再



グラスゴー大学構内Kelvinの住んだ家

本年のICOHTECのプログラム

.....今年Tampere で開催されたICOTEC と TICCIH のジョイント国際会議の全体構成は次のようなものであった。...(演題紹介)

直近の 国際会議

機械と機械工学

2010年10月12-14日北京

IFTOMM Workshop on history of

Mechanisms and Machines

北京で10月12-14日に開催されます。

The 2nd International Multi- Conference on Complexity, Informatics and Cybernetics: IMCIC 2011,

(March 27th - 30th, 2011 - Orlando, Florida, USA

◆◆◆◆ 本研究所蔵書から ◆◆◆◆

嶋崎昭典, 篠原昭, 内田貞夫著
『わが国の製糸技術書 加藤宗一文庫の解題にかえて』 信州大学繊維学科同窓会千曲会刊, 昭和57年9月, 198頁.
恒川 清爾

古田傳一編
『鞍山製鐵所事業概観』
鞍山製鐵所, 昭和5年,
恒川 清爾

